

創立 60 周年記念誌

肝高



沖縄県立 前原高等学校

創立60周年記念誌



平成18年3月
沖縄県立前原高等学校

記念誌目次

記念式典	1
記念祝賀会	3
記念碑除幕式	7
記念碑・創立跡記念碑	8
あいさつ	
学校長式辞	10
創立60周年記念事業推進委員長（P T A会長）	12
生徒会長	13
前原高校同窓会会長	14
沖縄県教育委員会教育長	15
うるま市長	17
象 徴	
校旗・校章及び校章の起源	20
本校の教育目標	21
校歌（新・旧）	22
本校の制服（新・旧）	24
現職員	26
歴代校長（16代～19代）	30
歴代P T A会長（12代～17代）	32
幾星霜（50周年以降10年のあゆみ）	34
栄光の軌跡（50周年以降）	84
沿 革（50周年以降）	90
思い出	
金城千代徳（16代校長）	104
佐久川政要（18代校長）	106
松根 正廣（19代校長）	108
池宮 昭（14代PTA会長）	110
長堂 政順（16代PTA会長）	111
知念 巧（32期生）	113
具志堅久美子（56期生）	115
前原、今・・・・	
名嘉真宜徳	118
島袋恒太郎	120
砂川真理子	121
山田 樹	123

思い出の作品（読書感想画・感想文）

「ハリーポッターと秘密の部屋」（感想画）高良綾乃	126
「わたしたちを忘れないで」（感想画）高良若菜	127
「ぼくらはみんな生きている」（感想画）徳田津奈子	128
「だからあなたも生きぬいて」（感想画）宮城翔子	129
「人間失格」を読んで（感想文）	130
「税金の必要性」（税の作文）	132
「幸福な死」を読んで（感想文）	133
在校生寄せ書き	136
記念講演	160
資料編	
校舎配置図	166
教室配置図	167
職員数	168
校務分掌組織図	168
卒業生総数一覧	169
校時表	169
教育課程	170
学級編成表	172
職員・旧職員一覧	175
寄付者名簿	179
同窓会名簿（51期～60期）	182

表紙題字「肝高」揮毫 伊覇和男（18期生）

記念式典

平成十七年十一月十一日



式辞を述べる比屋根 充 学校長



生徒会長あいさつ 山田 樹



左から、有銘 清 教頭、
宮里 勝二 60周年事業推進委員長
比屋根 充 校長、司会の名嘉眞宜徳先生



左から県立学校教育課副参事 諸見里明、うるま市
助役 石川邦吉、同窓会長 金城千代徳、
県議 仲田弘毅、ベンチャー高安社長 高安正勝



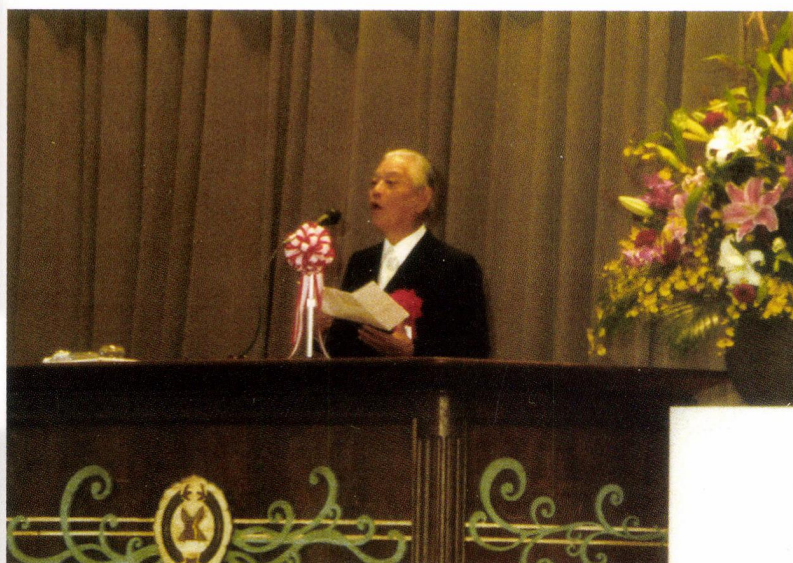
諸見里明県立学校教育課副参事あいさつ



宮里勝二60周年事業推進委員長あいさつ
(PTA会長)



高安正勝記念講演講師



金城千代徳同窓会長あいさつ



講演に聴き入る生徒

ブラスバンドの伴奏による校歌斉唱



祝賀会



P T A、同窓生、職員による幕開きの演奏



司会・
金城勝正さん

P T A・有志の皆さんの
見事な踊り



左から神田米三さん、伊覇和男先生、
目取眞永一先生

女生徒によるエイサー、男子顔負けの力強い演舞



校歌を斉唱する同窓生



力強く空手の演舞をする空手部

鏡割り
五人の息を合わせてうち下ろす



職員のにこやかな笑顔



名嘉眞宜徳先生





祝辞
嘉手川繁二元校長



生徒・職員と一体となって取り組んできたPTAの方々



翁長剛 PTA 副会長あいさつ



感謝状贈呈される城間末子PTA前会長



當銘亜里沙（1年）宮平梓（3年）上間綾乃（卒業生）





胸は鳴る青春の夢よみがえる

有銘清教頭



松根正廣前校長



女生徒の大漁節



比屋根校長、諸見里副参事、仲田県議



P T A 副会長あいさつ
前原さゆり



熱き青春の日今再び。スクラム組んでの熱唱

平成十七（二〇〇五）年十一月九日

記念碑除幕式



参列者（左から）
城間末子前PTA会長、下地武夫校訓揮毫者
比屋根充校長、山田樹生徒会長、
金城千代徳同窓会長、宮里勝二記念事業
推進委員長（PTA会長）、有銘清教頭



さあ～、除幕。生徒会役員、部活生、職員の見守る中いよいよ幕が落とされます。



「夢を再び！」と熱く語る金城千代徳同窓会長



沖縄県立前原高等学校創立六〇周年記念碑



本校創立跡記念碑



式典あいさつ





式 辞

校 長 比屋根 充

東に勝連城、南に雄大な中城湾を望む前原の地に、本校が呱呱の声をあげてより早60年の歳月が流れました。

本日ここに、県教育長、うるま市長をはじめ、御来賓並びに御父母の皆様、関係者多数の御臨席のもと、本校創立60周年記念式典を盛大に挙行できますことを心よりうれしく思います。

本校は、焦土と化した敗戦の混乱と荒廃のなか、郷土復興のための人づくりの拠点としての高い理想を掲げ、昭和20年11月12日、当時の具志川村高江洲小学校の一角を借りて開校され、前原高等学校と命名されました。昭和21年3月に与那城村西原の勝連城跡の米軍施設を譲り受けて移転、次いで近代化に向けて本校をさらに大きく発展させるべく、昭和33年6月にこの肝高の森を離れ、湛水の里・具志川市田場に移転し、現在に至っております。本土復帰前の占領軍政の厳しい統制下、さらに本土復帰後の教育改革のうねりのなか、幾多の試練を乗り越えて、ここに60年の歴史を刻むに至りました。

その間、本校は歴任教職員、生徒諸君の真摯な努力はもとより、県当局の御尽力、具志川、勝連、与那城の旧三市町村当局、PTA、同窓生並びに地域の方々の御協力によりまして、施設設備が整備され、本校は隆盛発展の一途をたどり、輝かしい歴史と伝統が築かれたのであります。施設について、50周年以降に限って見てみますと、体育館、テニスコート、多目的教室などが改築あるいは新築されております。また、今月下旬にはプールの改築工事が始まる予定になっております。

思い起こせば、野球部の3度にわたる甲子園出場、バレーボール、バスケットボール、卓球、剣道、陸上競技等々での県制覇、九州大会、全国大会での活躍等、伝統の肝高精神をいかに発揮し、常に本県高校スポーツの中心に本校が位置しておりました。また、文化活動にも優れ、進学面においても進学校としての実績を上げ、文武両道を兼ね備えた学校として高い評価を得てまいりました。在校生諸君には、この良き校風を受け継ぎ勉学に部活動に一生懸命頑張ることを期待しております。

卒業生は、本年の3月で20,574名を数え、県内外の各界、特に教育界でめざましい活躍をしておりますことは御承知のとおりであり、本校が戦後の郷土復興はもとより地域社会の発展に果たしてきた役割は、誠に大なるものがあります。このように多くの人材を輩出した本校は、現在では、校風・伝統を備えた風格のある学校として地域にしっかりと根づいているものと確信しております。現在、本校では1,2年生7学級、3年生8学級の814名が、人文、理数、英語及び体育の4コースに分かれて勉学に励んでおります。

ここに、幾多の苦難を乗り越え創立60周年という節目を迎えることになりましたが、これまでの本校教育の歩みを振り返り、その実績の上に立って21世紀の本校教育を展望していく必要があると存じます。そして、本校創立の理念に基づき、より理想的な教育環境づくりと新生うるま市はもとより広く社会に有為な人材の育成に向けて、誠心誠意努力することが本校に課せられた使命だと考えます。

このような観点から、学校、PTA、同窓会の三者が一体となって、さらに本校発展の契機にするべく、創立60周年記念事業推進委員会を結成し、創立60周年記念碑の建立、本校創立碑の整備、記念誌の発刊等の諸々の計画を進めているところであります。

本校が今日の発展をみましたことは、県当局は申し上げるまでもなく、うるま市をはじめ、多くの皆様方の御指導と御支援の賜であると深く感謝申し上げます。

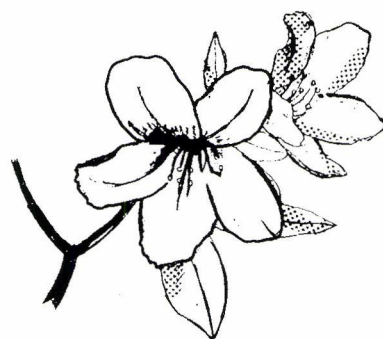
今後とも、本校創立の理念に基づき、高い理想と高邁な精神を堅持し、未来を展望しつつ、本校教育発展のため活力に満ちた教育活動を展開しなければならないと決意を新たにします。

おわりに、本校教育発展のためにこれまでも物心両面から多大な御支援を賜りましたが、創立60周年記念事業につきましても、御父母の皆様をはじめ同窓会や市内外の多くの皆様方の御援助と御協力を賜りましたことに対し深く感謝申し上げます。

また、本日は、本校21期生の高安正勝様（ベンチャー高安社長）より御講演を賜りました。生徒諸君にとって、今後の人生を歩む上でたいへん示唆に富む貴重なお話でありました。心よりお礼申し上げます。

本日は、お忙しい中を本校創立60周年記念式典に御臨席賜りました皆様方には衷心より感謝申し上げます。今後ともなお一層の御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げ、本校の限りない発展を祈念し式辞といたします。

平成17年11月11日





ごあいさつ

創立 60 周年推進委員会会長（P T A 会長）

宮 里 勝 二

本校は昭和 20 年終戦からわずか 3 カ月後の 11 月 20 日に現在の高江洲小学校の東側で開校し、小学校の校舎を借用しながら授業を行っていました。翌 21 年 3 月 14 日米軍工兵隊陣地跡（現与勝中学校）に移転し、7 月 30 日には第 1 回卒業式を挙行し、35 名の卒業生を送り出しました。

終戦後の物のない時代に米軍工兵隊地跡のコンセントをそっくり払い下げてもらい、校舎不足の他校からすれば羨ましい限りでありました。コンセント教室や運動場も整備され、生徒は伸び伸びとスポーツや勉学に励むことができ、各スポーツ大会での活躍はめざましく、また大学への進学が数多く「名門・前原」と言われたのはこの頃です。

昭和 33 年 6 月 13 日、現在地のうるま市田場に移転する頃まで文武両道の精神が受け継がれ、とりわけスポーツでの活躍は、「第二の黄金時代」とまで言われました。それまでは旧具志川市、旧勝連町、旧与那城村町の三市町村の全ての中学生が本校に入学し、伝統が築かれてきたわけです。

しかし、昭和 55 年に与勝高校、昭和 58 年に具志川高校がそれぞれ新設され、本校はその影響を大きく受けることになりました。2 校の新設により各地域からの入学生が分散され、クラス減も余儀なくされていくうちに勉学やスポーツにおけるかつての活気がなくなっていました。

そのため職員や地域から活気ある以前の前原高校の建て直しの声が高まり、当時の職員の研究や地域の助言などを得て、平成 6 年に体育、人文、英語、理数の 4 つのコースを導入し現在に至っています。

近況を申し上げますと各高校が校区の拡大により生き残りをかけ、様々な工夫、および改革が押し進められていますが、私ども前原高校でも制服のリニューアルや文理コース特進クラスの新設など新たな取り組みが行われております。そのために校長先生を始めとして職員、保護者そして地域の方々との一層の連携が本校の改革の重要課題と言っても過言ではないでしょう。

創立 60 周年という伝統、先輩方が築いてきた歴史に甘んじることなく、今までにやってきたことの継続さらに発展させていくことが必要です。そのためにも本日お越し下さいました皆様方のお力添えを賜りたいと存じます。

結びに沖縄県教育庁県立学校教育課長大嶺和男様、そして、うるま市長知念恒男様を始めご臨席の栄を賜りました、皆様、前原高校 60 周年事業に関わってくださいました関係各位の皆様に衷心より感謝の念を申し上げ挨拶と致します。



ごあいさつ

生徒会長 山 田 樹

今年は本校が創立されてから60年目に当たる記念すべき年です。この時期に本校に学び、さらに私たちの在学中にこの盛大な記念式典がもたれることをこの上なくうれしく思います。

60年。それは、私たち高校生にとって大変長い年月のように思われます。その間にはいろいろな歴史の移り変わりがあった事でしょう。本校は終戦後間もない昭和20年、戦争ですべてを失い、荒廃した中で生まれたそうです。そう言われても戦争を肌で感じていない私たちにはとても想像できませんが、鉛筆やノート、教科書も校舎もない食べ物すらない状況の中で、先生と生徒が一緒になって校舎を建てる事から始めたそうです。その血のにじむような苦労と努力を重ねて学校づくりに貢献された同窓の先輩や多くの方々には感謝せずにはいられません。同時に何不自由なく恵まれた学園環境の中で学べる私たちは実に幸せです。

名門前原高校には、現在四つのコースがあります。

まず、人文コースは、文系教科・科目を中心にして学び、更に現代の情報社会に合わせ授業に情報基礎を取り入れています。進学や就職にも大変有利だと思います。

次に、英語コースは、在学中に英語検定2級合格、外国大学留学など、国際化社会をリードしていくことを目標に英語を中心とした学習に励んでいます。

そして、理数系の教科・科目を重点的に学習する理数コースは、大学進学を目標に置きます。そのため、必修早朝講座や夏期講座を必修化し、大学進学には一番適したクラスだと思います。

最後に、体育コースは、部活動の活性化と体育系大学への進学のためのコースです。この四つのコース制で一人一人が自分の個性を生かせるようになりました。そんな前原高校を支えている先生方やPTAの方々には大変感謝しています。

なにもない時代から、今までそしてこれからの前原高校のためにご支援してくださっている方々の期待に応えるとともに、私たちは前原高校の歴史と伝統を築いた先輩方の努力と成果を受け継ぎ更に発展させていかなければならないと考えています。この恵まれた環境の中で私たちは今まで以上に努力し、そして私たちの手で先輩から渡された栄光のバトンを後に続く後輩たちにしっかりと引き継いでいくことを今ここで皆様に誓います。

最後に、輝かしい歴史と伝統に満ちたこのすばらしい学校を築いてくださいました諸先輩方、諸先生、御父母、地域の方々、関係機関の皆様に感謝を申し上げてあいさつと致します。



還暦を節目に さらなる飛躍発展を

前原高校同窓会会長 金城 千代徳

我が母校前原高等学校が創立60周年記念式典を迎えるに当たりかくも盛大に式典が挙行されますことに、私たち同窓生にとってこの上ない喜びであり心から祝福申し上げます。。

顧みますと本校は焦土と化した敗戦の荒廃の中から郷土復興の願いを教育に託せんと、地域住民の期待を担って、昭和20年1月12日生徒150名、職員7名で高江洲小学校の一角を借りて開校され、前原高等学校と命名されたのであります。昭和21年3月に与那城村西原（当時、現与勝中学校）に移転し、更に昭和33年6月に現地へ3遷し今日に至っております。

60年の歳月は長い、今の豊かな社会から比べて見ても、満たされることのない不自由な環境の中で、忍耐と根性と強い意志の力でもって本校発展の基礎を築かれたあの当時の先生方はじめ諸先輩に深甚な敬意を表します。

60年という節目は人間にたとえれば還暦にあたります。当時生まれた人は社会的役目を終え定年を迎えたのであります。我が母校には定年はありません。休むことなく耐えざる飛躍と発展を同窓生一同願っています。

母校前原高校は隆盛発展の輝かしい歴史と伝統を有しスポーツ面しかり、進学校としても県内トップの栄冠に輝き全盛を誇ったのであります。ちなみに昭和50年頃、琉大への合格者も県内で6番目に位置しスポーツ面でも新聞に「勝ちました。困りました。」の見出しで学校側の派遣費の捻出の苦労が報じられたとのことです。

私ごとで大変失礼とは思いますが、私は平成6学年度から8学年度まで本校の校長として3年間勤務致しました。

平成7年には創立50周年記念式典も盛大に挙行することができました。前原高校各期の同窓生が母校愛を発揮し、総事業費3千5百5拾万円余の収入の内千2百万円の協賛金を募ることができました。

平成8年の大きな収穫は体育コースの飛躍に目をみはるものが数多くありました。その中でも「夢実現、甲子園へ。」の夢を掲げその実現に頑張った野球部の活躍は、前原高校の歴史に燦然とかがやくものがあります。

第78回全国高等学校野球選手権大会で常勝沖縄水産を制し、沖縄県高校野球の頂点に立ち見事甲子園への出場を果たしたのです。実に23年ぶりの甲子園出場でした。この感想と感激を私は生涯忘れることはないでしょう。

平成8年は野球以外にも春校バレーが常勝中部商業を破り16年ぶりに優勝を遂げました。その外にも卓球や剣道等の素晴らしい実績を上げました。

60周年を節目に母校の限らない飛躍と発展を願い挨拶とします。



ごあいさつ

沖縄県教育委員会教育長 仲宗根 用英

県立前原高等学校が、創立60周年を迎えるにあたり、ご挨拶を申し上げます。

本校は、沖縄戦の硝煙がいまだ消えやらぬ昭和20年11月12日、多くのものが灰燼に帰した中で、郷土の復興と再建を願う人々の強い要望によって、当時の具志川村高江洲の地に開校致しました。

顧みますと、開校当初、高江洲初等学校を借用し、1ヶ月後に、字豊原に移転、翌年3月には与那城村字西原へ移り、昭和33年6月に現在地に設置されました。戦後の混乱期、校舎・施設・教材の不足等。幾多の困難に遭遇しながら、生徒の学習に支障がないようにと、父母や地域が一生懸命に汗を流して学校づくりに協力していただきました。「沖縄の復興はまず人材の育成に在り。」との考えの下、本校の学校創りにご尽力いただきました先人達の情熱と教育愛にあらためて大きな感動を覚えるものであります。

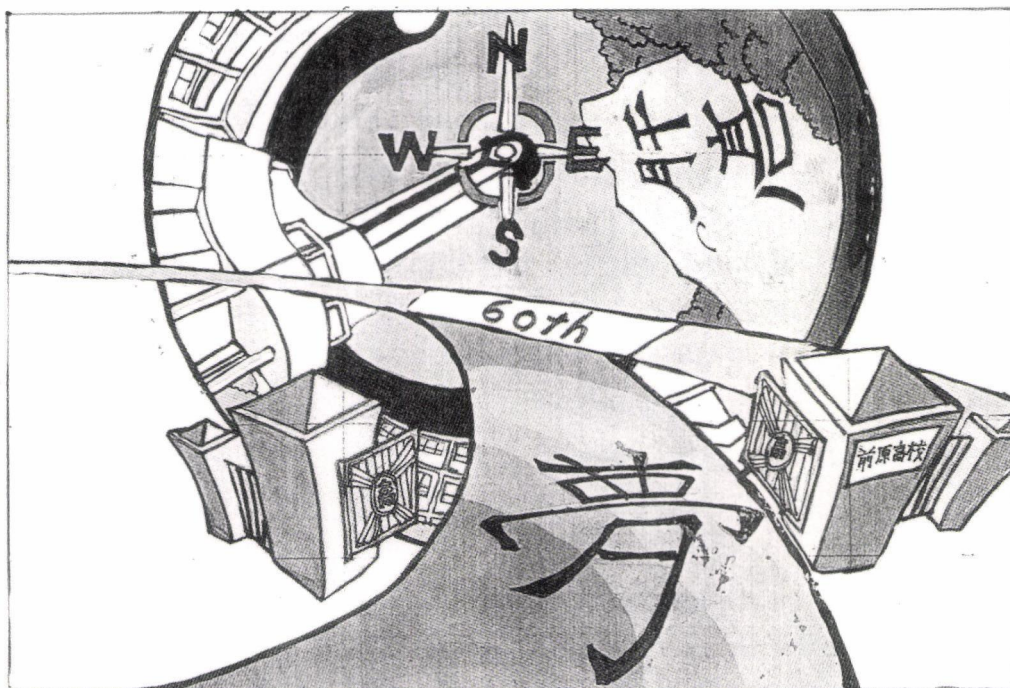
60年の歳月の中、米軍政時代、本土復帰という激動の時代を歩んできた本校の歴史は、まさに戦後沖縄教育の歴史といっても過言ではありません。今日まで献身的に本校の教育活動に貢献されました、歴代校長を始めとして、教職員、PTA、同窓会並びに地域の皆さまに心から敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、創立当初、150名の生徒で出発した本校も、年々発展を続け、今日では820名の生徒を擁し、文武両道に亘る中部地区における名門校として、その名を世に馳せております。その間、本校を巣立っていった2万5百余名にわたる卒業生の多くが、県内外の政財界、あるいは教育界等各分野において、指導的立場に就き、その中核となって活躍されています。

本校は、その草創期以来、生徒・教職員一丸となって、学習活動、文化活動、スポーツ活動、さらには生徒会活動にと様々な面で優秀な成績を残してきました。三度にわたる甲子園出場を始め、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、卓球および剣道等の県内制覇、文部大臣旗争奪全国高等学校弁論大会における最優秀賞受賞等、輝かしい実績があります。これも生徒のみなさんの日頃からのたゆまぬ努力はもとより、今日の本校の教育活動の礎を成すものであります。

本日、60周年記念式典を迎えるにあたり、在学生の皆さんに望みたいことは、勉学に励み、心身を鍛え、スポーツに親しみ、お互いに切磋琢磨し、21世紀を切り拓くたくましさ、国際社会で活躍できる広い視野を身につけ、本県と世界とを結ぶ架け橋となっていきたいということであります。

最後に、生徒、教職員の皆さんが一体となって、本校の更なる発展・充実のためご尽力されることを期待し、卒業生や地域の皆さんに永く愛される前原高等学校となりますよう祈念し、あいさついたします。



第61回 卒業式 壁画



祝 辞

うるま市長 知 念 恒 男

このたび沖縄県立前原高等学校60周年を迎えるにあたり、心からお喜び申し上げます。

ご承知のように、昭和20年11月12日に開校して以来、生徒の能力・適正・興味・関心・進路等の多様化に応じた特色ある教育課程や施設設備に取り組み、多くの人材育成に努めてこられましたことに対し深甚なる敬意を表します。

また、創立から今日まで2万人余りの卒業生を送り出し、各界においてご活躍されておりますことは、まことにご同慶に堪えません。

これもひとえに、人材育成に尽くされました歴代校長はじめ教職員各位ならびにPTA・同窓会の皆様方の教育に対するご熱意と実践のたまものと拝察致します。

教育は、国や県づくりの基盤をなすものであり、本県の自立発展に向けた高等教育の担う役割は一層その重要性を増しておりますが、高等学校における教育は、人間の豊かな個性を伸ばし、望ましい目標に向かって個人の可能性を広げることにあると承知いたしております。関係各位におかれましては、高等学校における人材育成に、今後一層のご尽力を賜りますようご期待致します。

また、このたびの創立60周年にあたり、期成会の皆さまが一体となって記念事業に取り組まれ、多くの事業を推進されておりますことは、学校教育の充実と進展に大きく貢献されるものであり、関係各位に対し重ねて敬意を表する次第でございます。

結びに、創立60周年を契機に本校が、ますますご発展されますよう祈念申し上げます、祝辞といたします。

